

## 27年10月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成27年 10月1日～ 27年10月10日

## 2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
10月分の回答企業数は8社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目   |     | 27/10月 | 11月    | 12月    |
|------|-----|--------|--------|--------|
| 入荷動向 | 国産材 | 0.0    | 0.0    | △ 8.3  |
|      | 外材  | △ 33.3 | △ 25.0 | △ 25.0 |
| 在庫動向 | 国産材 | △ 8.3  | △ 16.7 | △ 16.7 |
|      | 外材  | △ 50.0 | △ 33.3 | △ 16.7 |

・国産材ラミナの入荷は10月、11月の横ばいが12月はやや減少。外材は3ヵ月連続して減少。  
・国産材及び外材ラミナの在庫は、3ヵ月連続して減少。

## (2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

| 品目  | 27/10月 | 11月  | 12月  |
|-----|--------|------|------|
| 国産材 | 0.0    | 0.0  | 0.0  |
| 欧州材 | 30.0   | 20.0 | 20.0 |
| その他 | 0.0    | 0.0  | 0.0  |

・国産材ラミナの入荷価格は、3ヵ月連続して横ばい。外材は3ヵ月連続して強含み。その他は3ヵ月連続して横ばい。

## モニターからのコメント

## (ラミナ荷動き)

・スギ入荷は前月同様横ばい、岩手産カラマツラミナの入荷は前月より増加、北海道産ラミナは順調に入荷。スギ在庫は横ばい、カラマツは前月よりやや増加傾向。  
・年明けから入荷を抑える予定。在庫は減少。  
・10月、11月はラミナ入荷減。過多だった在庫も調整がつく状況。  
・着工数の増加と共に製品の販売数量も増加するが、長らくかかえている在庫がようやく出荷されている。大幅な増産までは考えにくく、今の現状の仕入でバランスを取っていく。在庫もより適正に近づけているため、やや減少傾向が続くが、年末には落ち着くと見られる。

## (ラミナ価格動向)

・スギは横ばい、カラマツは北海道産のみ若干の値上げ実施。  
・為替次第だが、先は分らず。  
・国産材は、原木の品薄感からややラミナ取引単価が上昇している。しかし、製品の値段は上がらず、冬に向かってまたやや下落していくものと思う。

## 27年10月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

## (3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目   |         | 27/10月 | 11月  | 12月    |
|------|---------|--------|------|--------|
| 生産動向 | 国産材     | 0.0    | 0.0  | △ 7.1  |
|      | WW集成管柱  | △ 33.3 | 0.0  | △ 16.7 |
|      | RW集成平角  | △ 20.0 | 0.0  | △ 20.0 |
|      | 米マツ集成平角 | 16.7   | 16.7 | 0.0    |
|      | WW集成平角  | —      | —    | —      |
| 出荷動向 | 国産材     | 14.3   | 28.6 | △ 7.1  |
|      | WW集成管柱  | △ 16.7 | 0.0  | △ 16.7 |
|      | RW集成平角  | 10.0   | 10.0 | △ 10.0 |
|      | 米マツ集成平角 | 25.0   | 25.0 | 0.0    |
|      | WW集成平角  | —      | —    | —      |

・国産材集成材の生産は10月、11月の横ばいが12月はやや減少。WW集成管柱及びRW集成平角は10月の減少、11月の横ばいが12月は再び減少。米マツ集成平角は10月、11月の増加が12月は横ばい。

・国産材及びRW集成平角の出荷は10月、11月の増加が、12月は減少。WW集成管柱は10月の減少、11月の横ばいが12月は減少。米マツ集成平角は10月、11月の増加が12月は横ばい。

## (4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

| 品目       | 27/10月 | 11月  | 12月    |
|----------|--------|------|--------|
| スギ集成管柱   | 12.5   | 0.0  | △ 12.5 |
| ヒノキ集成柱   | 0.0    | 0.0  | 0.0    |
| ヒノキ集成土台  | 16.7   | 16.7 | 16.7   |
| カラマツ集成土台 | 0.0    | 0.0  | 0.0    |
| WW集成管柱   | 16.7   | 16.7 | 0.0    |
| RW集成平角   | △ 10.0 | 20.0 | 10.0   |
| 米マツ集成平角  | 0.0    | 0.0  | 0.0    |
| WW集成平角   | —      | —    | —      |
| 米ヒバ土台角   | 0.0    | 0.0  | 0.0    |
| カラマツ集成平角 | 0.0    | 0.0  | 0.0    |

・スギ集成管柱は10月の強含みが、11月は横ばい、12月は弱含み。ヒノキ集成柱及びカラマツ集成土台は3ヵ月連続して横ばい。ヒノキ集成土台は強含み。

・WW集成管柱は10月、11月は強含み、12月は横ばい。RW集成平角は10月の弱含みが、11月、12月は強含み。

・米マツ集成平角、米ヒバ土台角及びカラマツ集成平角は3ヵ月連続して横ばい。

## モニターからのコメント

## (構造用集成材荷動き)

・生産は、前月同様横ばい。10月から、ハウスメーカーや工務店等の動きが良くなる見込みであり、プレカット工場向けの荷動きは9月下旬頃より上向きになっている。また、非住宅や災害公営住宅は荷動き活発化する見込み。

・在庫の調整がついたため、販売量に応じた生産としている。荷動きは年明けから鈍ると予測。

・10月、11月、12月の生産は少なめ（1割減）で行う予定。シルバーウィークの影響もあって、10月上旬の荷動きは良好。

・生産については、プレカット工場の稼働率は上がっており、生産数量を少し増産する程度。需要がどこまであるのか想定しづらく、生産し過ぎての在庫過剰を警戒している。米ヒバ集成平角は、プレカット工場の稼働率上昇に合わせやや増加している。11月以降、年末くらい横ばいと見る。出荷については、ヒノキ集成材はハウスメーカー向けの出荷が増加しており、年末までは続くものとする。ヒノキ集成土台も引き合い強く、9月に入ってから一気に増えた。米ヒバ集成土台も全国的に盛り上がり、主要な出荷先へは通常かそれ以上のペースになってきているところが多い。

## (構造用集成材出荷価格動向)

・スギは、若干の値上げ基調であった所に、大手メーカーが値下げ要請を出したため、当面横ばいで推移すると予想。原木も値上げ基調で、メーカーは非常に厳しい状況。カラマツは原材料の価格は引き続き横ばいで推移、製品価格も基本的には横ばい、値下げ要請は若干あるが、上記のことから値下げに対応出来る状況にない。

・全体的に12月から下げ基調に入る可能性ある。

・荷動きは良いので、価格上昇を望む。

・ヒノキは好調に流れてはいるものの、製品価格の値上がりには踏み切れないだろう。その代わりに、年が変わっても仕事があり、現行価格を維持していくことを目標とする。米ヒバの価格は、ヒノキよりもっと安定しているように思う。ただ一部のハウスメーカーも米ヒバからヒノキに転じているので、今以上に米ヒバ土台を売り込んでいく必要があると思う。